

特 号
令和5年10月

JA 加賀
加賀市米麦改良協議会
加賀農業改良委員会

営農だより

来年の
米の収量・品質の
決め手は、この秋の
土づくりから!!



農業の基本は土づくりから! 収量確保のためにも土づくりに取り組みましょう!

水田における土づくりの必要性

近年の異常な高温や、大雨を伴う日照不足が登熟期間に重なると収量・品質に大きく影響します。気象変動に対応していくには、健全な稲体を作っていくしかありません。良質米生産県として安定した品質と収量を確保するためにも、今一度「土づくり」を見直しましょう。JA加賀管内では、リン酸、ケイ酸が目標値に達していない圃場が多く、その中でも特にケイ酸は不足しています。近年の異常気象等によって、品質・収量が低下しやすくなっており、気象変動に強い米づくりを行うには土づくりが必要不可欠です。



土づくり効果の3つのポイント!

- ①登熟が向上し、収量や品質が向上する!
- ②病害虫や異常気象への抵抗性が強まる!
- ③倒伏に強くなる!

水稻土づくり資材散布実績

地区	散布率 (%)		
	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績
加賀	18.7%	19.1%	12.2%
小松	46.2%	53.5%	40.0%
根上	23.1%	20.6%	0.3%
能美	65.3%	64.2%	55.9%
白山	39.2%	35.6%	20.2%
松任	46.1%	46.9%	31.3%

データ提供: JA全農いしかわ

昨年の土づくり資材の散布率がR3年度に比べ減少しております。また、他JAと比較すると散布率は著しく低い傾向にあります。

JA加賀 土づくり資材 オススメ商品

BB加賀土元気

リン酸・ケイ酸が必要な圃場に



加賀市の土壌で不足しているリン酸・ケイ酸を配合したJA加賀オリジナル肥料!
※吸収利用率の高いケイ酸を使用

保証成分			
リン酸	ケイ酸	苦土	アルカリ
14	21	9	44

【施用量】100kg/10a(5袋)

BBひやくまん馬力

オススメ



吸収利用率の高いケイ酸原料を使用!丈夫な稲体づくりに必要な微量要素もバランス良く配合された低コスト肥料です!

保証成分				
リン酸	ケイ酸	苦土	アルカリ	マンガン
2	20	4	26	0.3

【施用量】100kg/10a(5袋)

ひやくまん製を作られて
いる方、もしくはケイ酸
が必要な圃場にも、もし
は微量要素が欲しい方に

ようりん



持続力

リン酸は、く溶性で流亡・流脱が少なく、肥効の持続が高い肥料!

保証成分			
リン酸	ケイ酸	苦土	アルカリ
20	20	12	45

【施用量】100kg/10a(5袋)

BBかがやき土アップ

低コスト肥料



ケイ酸を多く配合したJA加賀オリジナル肥料!しかも低コスト肥料です!
※吸収利用率の高いケイ酸を使用

保証成分				
リン酸	ケイ酸	苦土	アルカリ	マンガン
5	24	4	42	1

【施用量】100kg/10a(5袋)

コストを抑えて
土づくりをされたい方
もしくはケイ酸が
必要な圃場に

来年の稲づくりは、この秋の土づくりから!

「秋の土づくり」は収量・品質向上に向けた大事な作業!

土づくりで大事な3つのポイント

point
1

10月中旬までに耕起!!

微生物の活動が活発なうちに稲わらを動き込むことで、土壌中の腐熟が促進！
翌年の生育安定に効果！（気温が低いと微生物の活動量が減少）

稲わらをすき込むことにより、ケイ酸などの養分だけでなく、豊富な有機物を補給することができ、**地力の素となる腐植**に分解されます。

稲わらのすき込みは、微生物が活発に動ける**気温の高い10月中旬まで**に行いましょう。
早ければ早いほど効果が期待できます。

稲わらをすき込む際に**土づくり資材と併用**することで更なる効果が得られます。
稲わらは土壌中ですき込まれ腐植となり、稲に必要な養分の供給源となります。
また、メタンガスの発生を抑え、環境にも配慮した農業につながります。



point
2

耕起と併せて土づくり資材を投入!!

水稲では特にケイ酸が大量に吸収されます。
強い稲・品質向上のために土づくり資材でしっかりとケイ酸を補給!!

稲が健全な生育をするには、根の伸長促進により養分吸収の増大を図ることが基本です。
水田土壌で特に不足するリン酸、ケイ酸を含んだ土づくり資材の散布が生産、品質安定に欠かせません。ケイ酸は稲の骨格を作る重要な養分で、**不足している圃場ほど、施用による増収効果が期待できます。**

point
3

耕起の深さは15cm以上&ゆっくり!!

作土が浅いと根の伸長が阻害！「ゆっくり深い」耕起を！

作土層が浅いと根域が制限され、根の機能低下が早まり、高温障害や日照不足による白未熟粒の発生につながります。

作土を拡大し根域を拡大させ稲体の活力を高めるため深耕を行いましょう。**深耕の目標は15cm**です。

右の写真は、低速耕起区（約3分/40m）と、高速耕起区（約2分/40m）とで根を比較した結果。

同じ耕起速度でも、春耕起に加え秋耕起を実施した場合も耕深が確保しやすくなります。

高速耕起区

低速耕起区



低速耕起区は、深耕となり、長く細かい根が多く出ている。

令和6年度に 大麦を出荷される生産者の方へ

令和6年産大麦を出荷予定の方は出荷契約書の提出が必要になりますので、
出荷契約書を記入・提出されていない方は支店TAC又営農推進課までご連絡をお願い致します。

※出荷契約書が **未提出** となりますと、転作奨励金等の交付金の **交付対象外** となります。